

活動報告書

報告者氏名：内田潤一 所属：長野県長野養護学校朝陽教室 記録日：2013年2月8日

【対象児（群）の情報】

- ・学年

高等部2年生 7名

- ・障害名

知的障害を中心とした学級

- ・障害の困難の内容

生徒の共通の特徴としては、抽象的な言葉や言葉だけの指示による十分な理解が難しく、絵や写真などの視覚的な資料の提示が状況によっては必要である。

【活動目的】

- ・当初のねらい

高等部の旅行行事に向けて、書籍やインターネットにより情報を得るといった取り組みをしてきたが、十分なイメージができなかった。そこで、下見の際にS k y p eにより学校と旅行先をビデオカメラ通信で結び、書籍には載っていない実際の景色を伝えたり、その場で質問に答えることが、生徒の旅行のイメージ作りの助けになることをねらった。

- ・実施期間

平成24年8月～平成25年2月の期間中に情報収集のために活用した。

平成25年2月8日に修学旅行の下見の際に学校との双方向通信の手段として活用した。

- ・実施者

内田潤一（長野養護学校高等部 朝陽教室）

- ・実施者と対象生の関係

副担任

【活動内容と対象生（群）の変化】

・対象群の事前の状況

2年時に実施した宿泊学習の計画では、旅行雑誌や冊子などの資料を活用したが、限定的な情報や文章からではイメージが持ちにくいといった感想が生徒達から寄せられた。

・活動の具体的内容

i P a dによるストリートビューの活用により実際に移動する道路などの様子を知ることができるのではないかと考えた。S k y p eにより離れた場所からの映像と現地とのやりとりの中で知りたい情報を得ることができるのではないかと考えた。

・対象群の事後の変化

旅行行程に従いストリートビューで巡ったところ、行ったことのない場所でも風景を知ることで親しみを持つようになった。

S k y p eの利用により、知りたい情報を場合によっては得ることができ、活動への意欲が高まった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

対象群はi P a dを囲みながら、旅行先の風景の感想を話し、目的地への親しみが持てた様子であった。

S k y p eによる学校と下見先のやりとりでは、生徒達からの現地の様子の質問も多く出て、関心の高まりを感じた。

・エビデンス（具体的数値など） ※表1の数値はおおよその数値であるため信頼性は低い。

学校側の通信環境の都合もあり、最初の時点では音声のみのやりとりとなってしまう場面があり、調整の末に映像のやりとりができたというのが実際である。場面1は海辺であるが、音声だけでは「海はどうですか?」といった質問となってしまったが、映像が届くことで、波の様子や船の映像なども求められ、質問数は増加した。場面2は、見学希望地の映像を送ったときの値であるが、見学希望地の映像と言うこともあり、写った瞬間に歓声が上がり、建物の構造や周囲の様子などの質問などが出された。あわせて、画面の角度や撮影範囲の注文なども出され、映像が付くことで関心の高まりが見られた。

表1 s k y p e使用時の質問数

	音声のみのやりとり	映像付のやりとり
場面1	3	10
場面2	5	18

・その他のエピソード

ストリートビューはパソコンでも見ることはできたが、生徒が「見たい」と思い立ったときにすぐに見ることができるといった点で、i P a dは便利であった。i P a dを囲んで風景の感想を話している姿もあった。